

倒産集計**信用交換所京都本社****11年10月繊維倒産****件数は前月・前年を上回るも、小規模倒産が大勢****▼全国▲ 発生件数=51件 負債額=131億3700万円**

2011年（平成23年）10月の全国繊維業者の倒産（負債額1000万円以上＝整理・内整理含む）は51件。前月比で15件（41.7%）、前年同月比で6件（13.3%）増加した。

負債額は131億3700万円で、前月比で81億5400万円（163.6%）増加したが、前年同月比で6億5800万円（4.8%）減少した。

負債10億円を超える大型倒産は小川テント㈱（東京都江東区、テント・シート製造、負債額38億円）、㈱都繊維（大阪市浪速区、紳士カジュアルウエアほか卸、同16億5000万円）、㈱アビ・ヒサツネ（大分県宇佐市、婦人服・洋品ほか小売、同12億円）で、この3社で負債総額の50.6%を占める。このほかには㈱高橋清次商店（新潟県見附市、婦人ニットウエア卸、同9億7600万円）などが発生したが、総じて小規模倒産が大勢を占めた。

上場企業2012年3月第2四半期が順次発表され、電機・機械・建設などは大幅欠損となった企業が多数見られたものの、猛暑による夏物衣料の好調や涼感商材の活発化等で専門商社など繊維関連の一部では好調な決算となった。

しかし、為替市場において10月31日に円が戦後最高値を更新、政府介入により一進一退の状況が続き、不安要素となっているほか、復興財源捻出のための増税議論が加速し消費者の購買意欲には逆風となっていることから、年末商戦を控え先行きの見通しは厳しいものと予想される。

繊維関連の倒産傾向は、震災の影響も一部あるが、依然として売上不振が要因として多く、次いで借入過多が続き、デリバティブに係る損失の内包を除くと、不況型に集中している。資金需要が増す年末を控え、すでにセーフティネットなどを利用しながらも、業績の低迷からさらに資金事情が悪化し、事業継続を断念する企業が増加することも懸念される。

業種別では「小売商」17件、「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」15件、「その他」7件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」4件、「寝具・インテリア製品製造卸」3件、「織物製造」「呉服・和装製品製造卸」各2件、「紡績・撚糸」1件。

原因別では「業績ジリ貧」が38件で全体の74.5%を占め、次いで「業況急変」5件、「資金力薄弱」3件、「放漫経営」2件、「融手連鎖」「信用度薄弱」「貸し倒れ損失」各1件となった。

▼京都▲ 発生件数=0件(前年同月1件) 負債額=0円(前年同月3億500万円)**▼滋賀▲ 発生件数=0件(前年同月0件) 負債額=0円(前年同月0円)**